

砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給 (2019年12月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2019/20年度予測値)

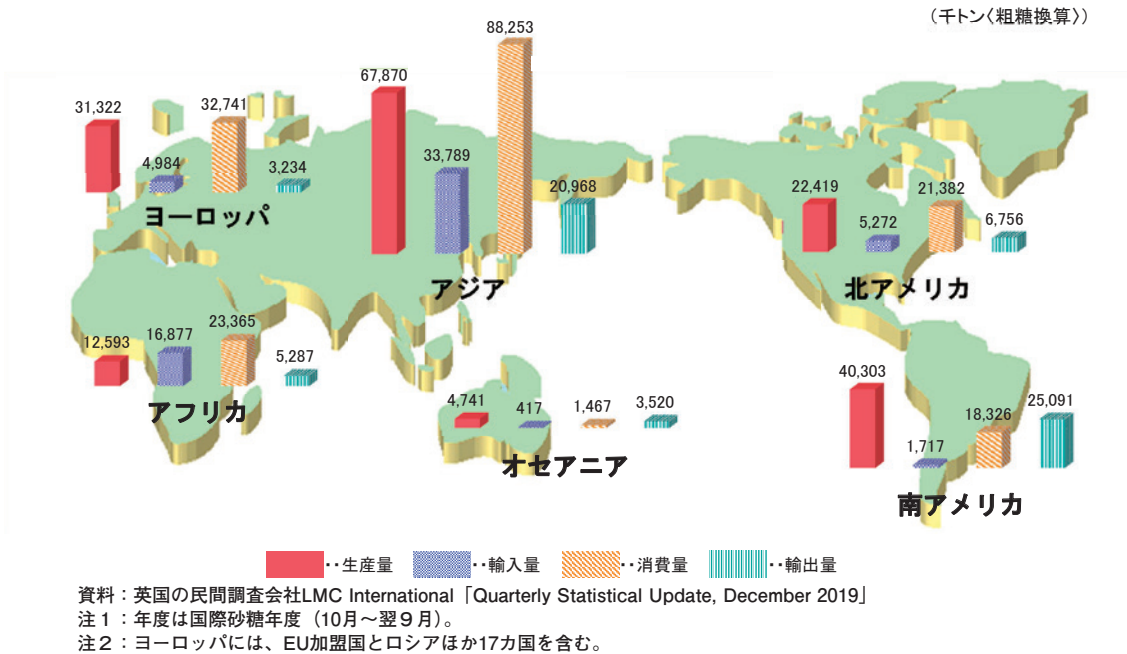


表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,084	160,315	56,023	164,779	56,244	50,398	30.6
2014/15	69,561	183,717	59,707	176,508	62,081	74,395	42.1
2015/16	74,395	175,955	67,776	179,661	69,077	69,388	38.6
2016/17	69,388	180,387	70,759	181,574	71,288	67,671	37.3
2017/18	67,671	195,333	67,236	180,765	69,396	80,080	44.3
2018/19	80,080	187,051	61,186	184,543	61,982	81,791	45.2
2019/20 (2019年9月予測)	81,618	181,706	60,991	184,250	63,971	76,093	41.3
2019/20 (2019年12月予測)	81,791	179,248	63,056	185,535	64,856	73,704	39.7

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっているので、次回は2020年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2020年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002110.html

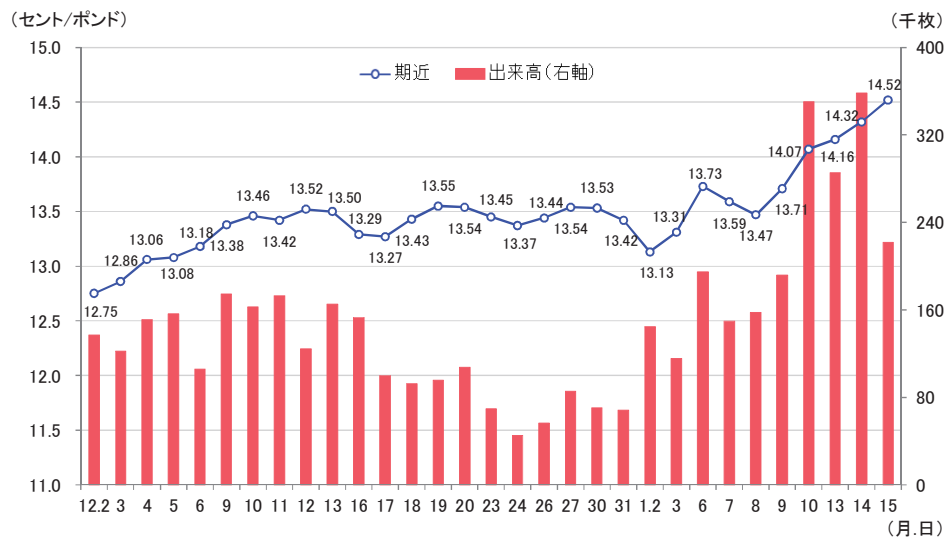
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002111.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（12/2～1/15）

～ 13セント台を維持した後、続伸し2年ぶりの高値に～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)

注：3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2019年12月の推移を見ると（3月限）、2日は1ポンド当たり12.75セント^(注1)の値を付けた。3日は続伸し、同12.86セントまで値を上げると、4日は製糖期に入ったインドの11月の圧搾量が想定以上の落ち込みであったことが相場の押し上げ要因となり、同13.06セントと2019年2月以来約10カ月ぶりに13セント台に回復した。その後は、砂糖の需給が引き締まるとの観測が相場を下支えし、13日は同13.50セントの値を付けた。16日は同13.29セントと下落し、17日は同13.27セントに続落したが、18日以降は、全般的に様子見ムードが広がったことで同13セント台半ばでもみ合いが続き、31日は同13.42セントの値を付けた。

年が明けた1月2日は、インドの砂糖生産見通しが上方修正されたことで同13.13セントと急落した。3日は中東情勢の緊迫化を受け、原油相場が急伸した影響で同13.31セントまで値を上げ、6日は

同13.73セントとさらに続伸した^(注2)。7日以降は原油相場の動きを受けて反落し、8日は同13.47セントと続落した。10日は、米国農務省 (USDA) が2019/20年度の世界の砂糖生産見通しを下方修正したことを受けて同14.07セントと急伸し、1年2カ月ぶりに14セント台に乗せた。その後も相場は堅調に推移し、15日は、ブラジルの12月後半の砂糖生産が芳しくなかったことが押し上げ要因となり、2018年1月以来の高値を付け同14.52セントとなった。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、代替燃料であるバイオエタノールの需要が上昇する。バイオエタノールへの需要が上昇すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが増えるため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の供給が減る方向に作用する。その結果、需給ひっ迫の懸念が強まり、商品相場は上昇する傾向にある。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年1月時点予測）

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：859万ha（前年度比0.7%減）

生産量：6億4110万トン（同3.3%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3162万トン（同1.3%増）

輸出量：2098万トン（同0.1%増）

2019/20年度、生産量はわずかに増加、輸出量は横ばいで推移する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年1月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが一部で見られるため、859万ヘクタール（前年度比0.7%減）とわずかに減少するものの、生育期間を通じて天候がおおむね良好で、順調に生育していることから、サトウキビ生産量は6億4110万トン（同3.3%増）とやや増加すると見込まれる（表2）。

長期化する砂糖の国際価格低迷などの影響を受けて、多くの製糖業者でエタノール生産を強化する動きが目立つものの、砂糖とエタノールの仕向け割合は前年度と同水準で落ち着くとみられることから、砂糖生産量は3162万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同1.3%増）とわずかに増加し、輸出量は2098万トン（同0.1%増）と横ばいで推移すると見込まれる。

ニューヨーク粗糖先物相場の上昇を受け、製糖業者は砂糖の増産を検討

粗糖の先物価格の長期低迷や、バイオエタノールの堅調な需要を背景に2019/20年度におけるブラジルのサトウキビの砂糖生産への仕向け割合は35.3%と、記録が残る2005/06年以降で最も低い水準となる見通しである。しかし、2019年12月に入ってから、インドやタイなどの主要生産国での減産が見込まれることから粗糖の国際価格は1ポンド当たり13セント台で推移した後、2020年1月中旬には同14セント台まで上昇しており、砂糖生産の収益性は改善するとみられる。現地報道によると、業界関係者が砂糖の増産に踏み切るには同14セント台を十分高い価格とは言えず、輸出港へのアクセスの良い業者に限られるとみられる。また、多くの製糖業者が砂糖の増産へかじを切るのは同15セントが分岐点になるだろうという見通しもある。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

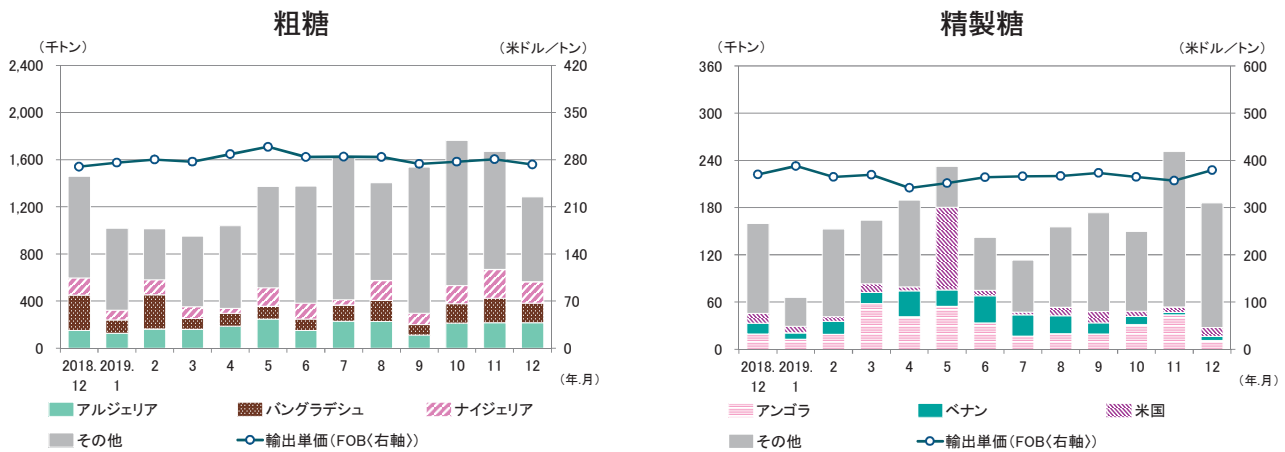
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (12月予測)	2019/20 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,488	8,617	8,649	8,587	8,587	▲ 0.7	
サトウキビ生産量	651,841	641,066	620,825	637,100	641,100	3.3	
砂糖	生産量	41,670	41,517	31,225	31,539	31,617	1.3
	輸入量	4	2	3	3	3	▲ 9.6
	消費量	11,275	10,852	10,635	10,635	10,635	0.0
	輸出量	30,117	31,026	20,969	20,904	20,982	0.1
	期末在庫量	1,022	663	287	290	290	1.0
	期末在庫率	2.5	1.6	0.9	0.9	0.9	0.0ポイント

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

インド

2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：459万ha(前年度比9.8%減)
生産量：3億6504万トン(同9.2%減)

【砂糖(甘しゃ糖)】

生産量：2933万トン(同17.8%減)
輸出量：512万トン(同7.0%減)

2019/20年度、輸出量は上方修正

サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州で発生した圃場の浸水被害などが影響し、2019/20砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は459万ヘクタール(前年度比9.8%減)、サトウキビ生産量は3億6504万トン(同9.2%減)と、ともにかなりの程度減少すると見込まれる(表3)。

糖みつなどを利用したエタノールの生産量は当初

の予測を下回って推移しているものの、前述のサトウキビ生産量の減少や長雨によるサトウキビの糖度低下の影響を考慮すると、砂糖生産量は2933万トン(同17.8%減)と大幅に減少すると見込まれる。砂糖相場が上昇傾向に転じたことで製糖業者の輸出意欲が高まっていることから、輸出量は前月から大きく上方修正されたものの、512万トン(同7.0%減)とかなりの程度減少する見込みである。

インド政府、2019/20年度砂糖輸出枠の再分配を公表

インド政府は2019年8月、2019/20年度の砂糖の輸出を促進するために製糖業者ごとに輸出目標枠（MAEQ: Maximum Admissible Export Quantity）を設定し、砂糖の輸送費なども補助することで、2019/20年度に600万トンを輸出する計画を承認した^(注)。しかし、製糖業者の中には契約が難航している者や輸出を検討しない者もあり、このままでは輸出目標を達成できない可能性が出てきた。これを受け、同政府は2020年1月3日、輸出目標を達成する見込みのある製糖業者に未達分の輸出枠を再分配する方針を製糖業者に通知した。具体的には、2019年10月から12月の輸出契約状況に基づき、目標の25%未満しか契約できていない製糖業者の輸出枠の一部を、既に目標の75%以上を契約し、枠の拡大を希望する製糖業者に1月31日までに再分配する。4月以降も直近の輸出状況を踏まえ、再分配を繰り返し、600万トン全量を確実に輸出することを目指す。

現地報道によると、2020年1月上旬時点で280万トン分の輸出契約が締結されており、2019/20年度の輸出目標の5割弱を達成したことになる。

(注) MAEQは努力義務として設定されているため、目標数量を達成できなくても罰則などは生じない。

マハラシュトラ州、砂糖生産量が前年度の約5割まで落ち込む見込み

現地報道によると、インドの砂糖生産量第2位のマハラシュトラ州では、2018年の干ばつの影響によるサトウキビ栽培面積の減少に加え、2019年8月に発生した豪雨によって多くのサトウキビ圃場が浸水被害を受けたことで、2019/20年度（以下、今年度という）のサトウキビの収穫面積は82万2000ヘクタール（前年度比29.3%減）と大幅に減少するとみられる。また、浸水によって損傷したサトウキビが飼料用に仕向けられているため、製糖工場に搬入されるサトウキビの量はさらに減少している。同州の砂糖局によると、今年度の同州の砂糖生産量は520万トンと前年度の約5割まで落ち込むと予測されており、製糖期間も前年度と比較して2カ月以上短くなると見込まれている。

同州では、原料だけではなくサトウキビの収穫を行う季節労働者の不足も問題となっている。例年同州には近隣地域から70万～80万人の農家が出稼ぎに来るが、今年度は長雨の影響を受けて本業の農業に専念する選択をした労働者が多く、今年度の季節労働者数は例年と比較して15～20%少ないという。

表3 インドの砂糖需給の推移

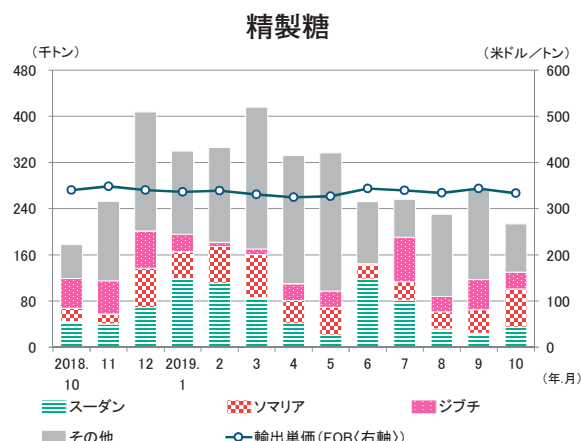
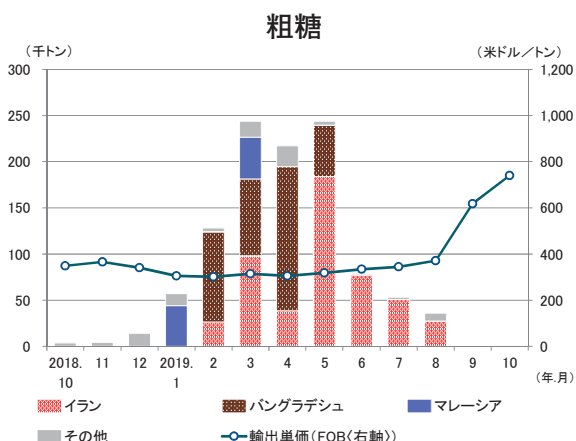
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (12月予測)	2019/20 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,327	4,826	5,090	4,590	4,590	▲ 9.8	
サトウキビ生産量	323,556	408,655	402,152	366,947	365,041	▲ 9.2	
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,690	29,329	29,329	▲ 17.8
	輸入量	2,536	2,307	646	800	800	23.8
	消費量	26,568	27,232	27,537	28,084	28,084	2.0
	輸出量	2,233	2,361	5,504	4,420	5,120	▲ 7.0
	期末在庫量	3,952	11,710	15,007	12,648	11,931	▲ 20.5
	期末在庫率	13.7	39.6	45.4	38.9	35.9	9.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量 (累計) 上位3カ国を表示。

中国

2019/20年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 118万ha (前年度比3.5%減)

生産量: 7769万トン (同1.1%減)

【てん菜】

収穫面積: 21万ha (同12.4%減)

生産量: 1090万トン (同6.6%減)

【砂糖 (甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量: 1103万トン (同5.2%減)

輸入量: 518万トン (同7.3%増)

2019/20年度、輸入量はかなりの程度増加する見込み

2019/20砂糖年度 (10月～翌9月) のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール (前年度比3.5%減) とやや減少し、天候不順で停滞していたサトウキビの生育状況に回復の兆しが見られるものの、収穫面積の減少による影響を相殺しきれず、サトウキビ生産量は7769万トン (同1.1%減) とわずかに減少すると見込まれる (表4)。てん菜については、収穫面積は21万ヘクタール (同12.4%減) とかなり大きく減少し、主産地である内モンゴル自治区で広範囲の害虫被害が発生した影響から、てん菜生産量は1090万トン (同6.6%減) とかなりの程度減少すると見込まれる。

これに伴い、砂糖生産量は1103万トン (同5.2%減) とやや減少し、その不足分を賅うため、輸入量は518万トン (同7.3%増) とかなりの程度

増加すると見込まれる。

2019年11月の砂糖輸入量、前年同月と比べわずかに減少

中国税関総署が2019年12月23日に発表した2019年11月の貿易統計によると、砂糖の輸入量は33万トン (前年同月比2.9%減、前月比26.7%減) と前年同月からわずかに減少した。ただし、10月の輸入量が前年同月比32.4%増の45万トンであったことから、10月から始まった2019/20年度の輸入量の累計は78万トン (前年同期比14.7%増) と、2018/19年度を上回って推移している。なお、中国では近年、砂糖需要の高まりに伴い海外から砂糖が密輸されていると言われていたが、この数量には密輸分が含まれていないため、実際の輸入量はさらに多いと推測される。

表4 中国の砂糖需給の推移

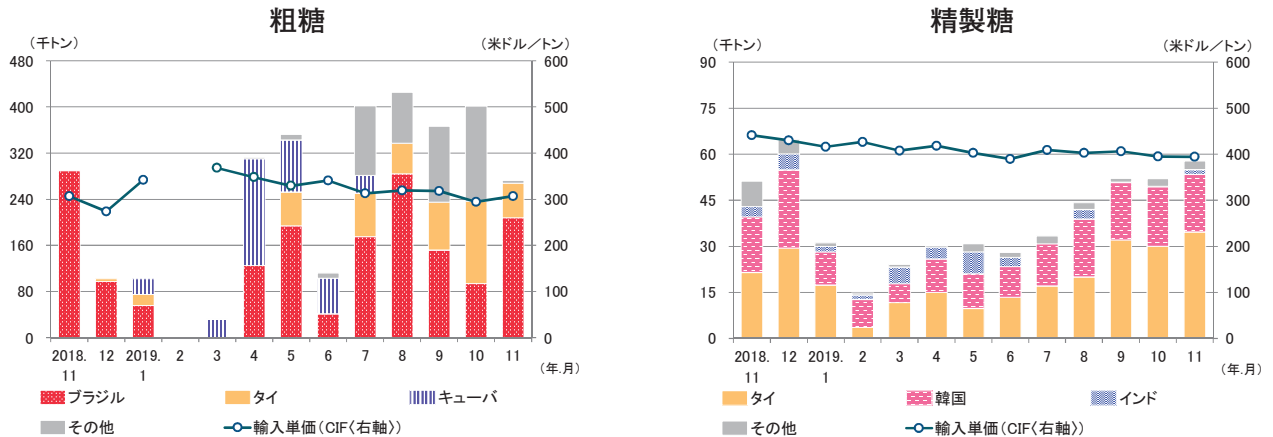
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (12月予測)	2019/20 (1月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,178	1,231	1,219	1,176	1,176	▲ 3.5
サトウキビ生産量	73,690	76,780	78,590	77,690	77,690	▲ 1.1
てん菜収穫面積	168	186	243	213	213	▲ 12.4
てん菜生産量	8,820	9,590	11,670	10,900	10,900	▲ 6.6
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	11,030	▲ 5.2
	輸入量	5,715	6,118	4,830	5,182	7.3
	消費量	16,847	16,414	16,522	16,522	0.0
	輸出量	146	195	228	190	▲ 16.7
	期末在庫量	10,689	11,345	11,064	10,703	▲ 4.5
	期末在庫率	62.9	68.3	66.1	64.0	63.2

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績がなかった。

EU

2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：161万ha(前年度比5.6%減)

生産量：1億1469万トン(同2.9%増)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1800万トン(同1.7%減)

輸出量：117万トン(同38.5%減)

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20砂糖年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は161万ヘクタール(前年度比5.6%減)とやや減少すると見込まれている(表5)。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの

反動で1億1469万トン(同2.9%増)とわずかに増加すると見込まれる。

前年ほどではないものの平年より高温・乾燥した状況が続いた、EU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜生産の落ち込みが響き、砂糖生産量は1800万トン(同1.7%減)とわずかに減少し、生

産量が消費量を下回ると予想されることから、輸出量は117万トン（同38.5%減）と大幅に減少すると見込まれている。

欧州委員会、砂糖および異性化糖の中期的需給見通しを公表

欧州委員会は2019年12月10日、砂糖および異性化糖に関する中期的需給見通しを公表した。2030/31年度のでん菜生産量は、砂糖価格の上昇に伴うでん菜買い取り価格の引き上げにより農家の収益性も上昇し、でん菜の作付面積が維持されることで、1億2373万トン（2019/20年度比3.7%増）と見込まれている。また、フランスやドイツなどの「ビートベルト」と呼ばれるでん菜主要生産地域に位置する製糖工場の閉鎖が2019年以降7件発表されているものの、残された製糖工場に原料が集中し

稼働率が上昇することで砂糖生産量の減少には影響を及ぼさず、2030/31年度の砂糖生産量は1853万トン（以下精製糖換算、同5.9%増）と見込まれている。一方、砂糖消費量^(注)については消費者の健康志向によって清涼飲料水や菓子の消費が落ち込み、2030/31年度にかけて年間0.8%の割合で減少するとみられる。消費量が減少することで輸出余力が増加するため、2030/31年度の輸出量は224万トン（同73.8%増）と予測されている。

異性化糖については、砂糖より低価格であることを強みに今後穏やかに需要が増加し、2030/31年度の生産量は100万トン（同59.9%増）に達するものの、甘味料全体に占める割合は低く、5%程度と見込まれている。

(注) 全体の砂糖消費量から工業用などの用途を除き、食品として消費するものに限る。

表5 EUの砂糖需給の推移

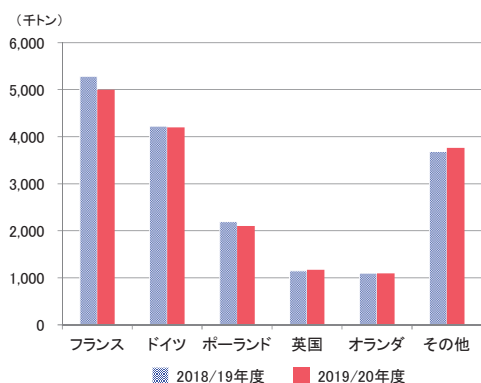
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (12月予測)	2019/20 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,466	1,731	1,709	1,613	1,613	▲ 5.6	
でん菜生産量	107,986	139,453	111,402	114,738	114,685	2.9	
砂糖	生産量	17,069	21,734	18,312	18,012	▲ 1.7	
	輸入量	3,117	1,731	2,530	2,718	3.6	
	消費量	19,177	19,218	19,653	19,523	▲ 1.1	
	輸出量	1,510	3,809	1,909	1,207	▲ 38.5	
	期末在庫量	2,267	2,705	1,985	1,989	0.7	
	期末在庫率	11.0	11.7	9.2	9.6	9.7	0.5ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

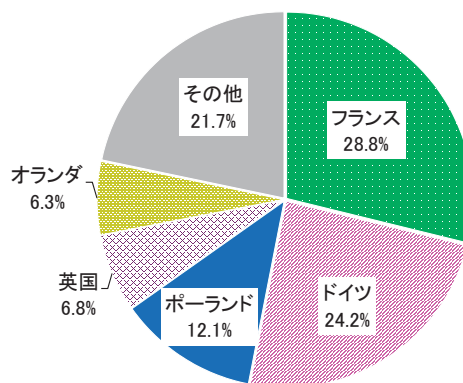
(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合（2019年12月時点）



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2018/19年度は暫定値、2019/20年度は予測値。



資料：欧州委員会

注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2020年1月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカについて報告する。

本稿中の為替レートは2019年12月末日TTS相場の値であり、1タイ・バーツ=3.71円、1南アフリカ・ランド=9.34円である。

豪州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：38万ha（前年度同）

生産量：3004万トン（前年度比7.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：410万トン（同13.2%減）

輸出量：313万トン（同8.6%減）

2019/20年度、砂糖生産量、輸出量ともに減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は38万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移するものの、夏の記録的な猛暑による影響で生育の遅れが見られることから、サトウキビ生産量は3004万トン（前年度比7.5%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表6）。

砂糖生産量はサトウキビの減産に加え、平均糖度が前年度を下回る水準で推移していることも影響し、410万トン（同13.2%減）とかなり大きく減少し、輸出量は砂糖の国際価格の低迷で輸出を控える動きが見られることから、313万トン（同8.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

1月以降の降雨量が2020/21年度の砂糖生産量に影響する可能性

LMC Internationalによると、2019年11月か

ら続いている豪州の森林火災によって焼失した面積は1000万ヘクタールに及び、森林火災の収束は早くとも2020年3月以降になると予測されている。ただし、同国産糖の9割以上を生産するクイーンズランド（QLD）州では森林火災被害をあまり受けておらず、圃場への延焼などによるサトウキビ生産量の減少は見込まれていない。一方、森林火災の一因でもある乾燥した気候はサトウキビの生育を抑制するとされている。2019年12月、QLD州と砂糖生産量第2位のニューサウスウェールズ州では100ミリメートルを超える雨が降ったものの、それ以前までの降水量はサトウキビの生育に必要な水準に達しておらず、2020年1月から3月の降雨量が4月から始まる2020/21年度の砂糖生産に大きく影響を与えるとみられる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (12月予測)	2019/20 (1月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	368	376	378	381	378	0.0
サトウキビ生産量	36,506	33,344	32,493	30,120	30,043	▲ 7.5
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,725	4,100	▲ 13.2
	輸入量	68	29	19	20	7.0
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,089	2.0
	輸出量	4,004	3,601	3,426	3,121	▲ 8.6
	期末在庫量	969	747	997	749	▲ 10.0
	期末在庫率	18.8	15.8	22.2	17.8	21.3

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：161万ha（前年度比12.5%減）
生産量：1億トン（同23.6%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1205万トン（同22.1%減）
輸出量：1109万トン（同6.2%増）

2019/20年度、輸出量はかなりの程度増加

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、161万ヘクタール（前年度比12.5%減）とかなり大きく減少すると見込まれている。2019年初頭の降雨量が少なく、サトウキビの生育が停滞していることから、サトウキビ生産量は1億トン（同23.6%減）と大幅に減少すると見込まれる（表7）。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は1205万トン（同22.1%減）と大幅に減少すると見込まれる。一方、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった砂糖の過剰在庫を解消するために消費の増加が期待できる近隣諸国への輸出を強化するとみられることから、輸出量は1109万トン（同6.2%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

タイ政府、2019/20年度のサトウキビ期首価格を引き上げ

タイ政府は2019年12月、2019/20年度のサト

ウキビの期首価格を1トン当たり750バーツ（2783円）とし、前年度から50バーツ（186円）引き上げることを発表した^(注1)。期首価格は、タイサトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）が予測する当該年度の砂糖産業全体の収益を基に設定される。2019/20年度の平均可製糖率（CCS）^(注2)は12.51と予測されていることから、実際の期首価格は1トン当たり863バーツ（3202円）程度と見込まれている。

(注1) 期首価格は、農家に支払われる最低取引価格のうち当該年度の期首に決定される価格で、基準糖度10CCSとして決定されている。実際のCCSに準じて1CCS当たり45バーツ（167円）が加算または減算される。年度終了時に実績に基づき期末価格が決定され、差額が精算される。

(注2) サトウキビのシヨ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。日本の品質取引に用いられる甘しや糖度に回収率（結晶として回収し得る砂糖の割合）を乗じたもの。

ハーベスタ不足で焼き畑規制を無視する農家も

タイ政府は2019年2月以降、焼き畑による大気汚染を防止するため、製糖業者に対し、焼き畑で収穫されたサトウキビの取引量を制限するなどの規制を行っているが、現地報道によると、タイ中部に位置するナコンサワン県などでは焼き畑を引き続き行う農家が見られている。同県ではハーベスタの貸し出しが行われているが、申し込みが相次ぎ、ハーベスタの空きが出るまで順番待ちの状態が続いている。一部の農家は、焼き畑に対する罰則があると認識しているものの、収穫遅れに起因する品質劣化で

手取りが減ることを避けたいという思いが強く、行政当局の監視が緩い夜間に焼き畑を行っているという。公害管理局によると、同県における2020年1月上旬のPM2.5濃度は基準値を上回り、大気汚染の状態は野外活動を減らすことが望ましい水準にある。

(注) タイの焼き畑の現状、課題および政府の政策などについての詳細は、「砂糖類・でん粉情報」2019年6月号「タイにおける砂糖産業の動向」(https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001986.html)を参照されたい。

表7 タイの砂糖需給の推移

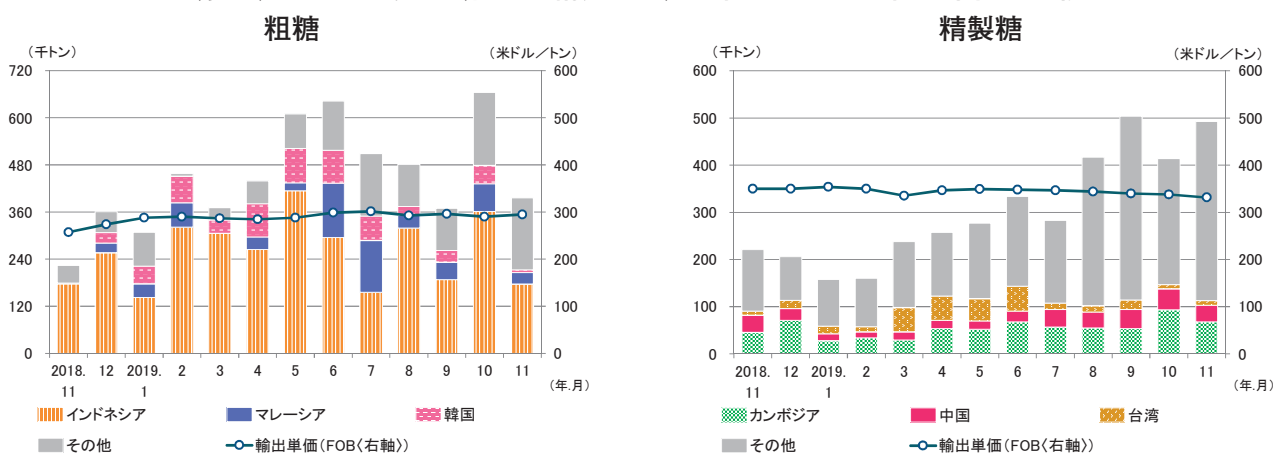
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (12月予測)	2019/20 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,790	1,835	1,436	1,606	▲ 12.5	
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	105,000	100,000	▲ 23.6	
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	12,392	▲ 22.1	
	輸入量	0	6	3	3	0.0	
	消費量	3,283	3,347	3,737	3,812	2.0	
	輸出量	7,393	10,077	10,439	12,031	6.2	
	期末在庫量	3,951	6,119	7,402	3,964	▲ 38.5	
	期末在庫率	37.0	45.6	52.2	25.0	30.5	21.7ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



南アフリカ

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：28万ha（前年度比0.7%増）

生産量：1972万トン（同3.6%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：244万トン（同3.9%増）

輸出量：114万トン（同4.5%増）

2019/20年度、生産量と輸出量はやや増加する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は28万ヘクタール（前年度比0.7%増）とほぼ横ばいで推移し、生育期の天候に恵まれたことでサトウキビ生産量は1972万トン（同3.6%増）とやや増加すると見込まれている（表8）。

原料の増産を受けて、砂糖生産量は244万トン（同3.9%増）とやや増加し、輸出量も114万トン（同4.5%増）とやや増加すると見込まれている。

南アフリカ製糖協会、製糖業者の事業拡大の必要性を主張

南アフリカ製糖協会（SASA）は2019年12月6日、南アフリカの砂糖産業の持続的な発展のためには製糖以外の事業にも今後取り組む必要があるとの考えを示した。

同協会によると、同国産砂糖の需要はここ2年間で急速に縮小傾向にある。一つ目の要因として、2018年4月に導入された健康増進税（糖類を含む

飲料への課税）による増税を飲料メーカーが回避するために飲料へ添加する糖類の量を削減したことが挙げられる。2018/19年度は、健康増進税の影響を受けて砂糖消費量が25万トン減少し、その損失額は最低でも12億ランド（112億800万円）に上るとみられる。二つ目の要因は、隣国エスワティニからの砂糖輸入量の増加である^(注)。2019/20年度のエスワティニからの砂糖輸入量は前年度比20%増と予測されている。

同協会は、砂糖の輸入は必要不可欠なものではなく、国内需要が国内産糖で満たせない場合に輸入すべきと指摘したほか、バガス由来の製品やエタノールを製造したり、サトウキビ以外の作物へ転作したりすることで、砂糖事業への依存度を低くする必要性があるとした。

(注) 南アフリカ関税同盟（SACU）加盟国（南アフリカ、ボツワナ、レソト、ナミビア、エスワティニ）のうち、砂糖生産国は南アフリカとエスワティニのみである。エスワティニには南アフリカへの砂糖の無税輸出枠が割り当てられているが、実際の輸出量は輸出枠を超え、年間30万～40万トンに上るといわれている。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (10月予測)	2019/20 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	250	275	280	282	282	0.7	
サトウキビ生産量	15,075	17,388	19,032	19,900	19,722	3.6	
砂糖	生産量	1,712	2,158	2,348	2,373	2,439	3.9
	輸入量	963	854	613	683	832	35.8
	消費量	2,274	2,304	2,097	2,134	2,134	1.8
	輸出量	225	801	1,089	929	1,138	4.5
	期末在庫量	525	431	206	177	205	▲0.6
	期末在庫率	21.0	13.9	6.5	5.8	6.3	0.2ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。